

平成29年度市政懇談会 開催結果概要

- 日時 平成29年7月7日（金）午後6時～
- 会場 コアかがやき
- 参加者 13人

【市長より説明（別途資料参照）】

○将来を見通したまちづくり

- ・ 釧路市の台所事情
- ・ 釧路市の人口推移
- ・ 雇用を生み出す産業の強化
- ・ 子どもを生み育てたいという希望をかなえる
- ・ 「世界一級の観光地」を目指して
- ・ 阿寒湖アイヌ施策の推進
- ・ 安心な暮らしをつくる
- ・ 人口減少に対応した地域をつくる
- ・ 釧路市まちづくり基本構想等の策定について

●意見交換

【参加者A】

これからの人口減少に対応した地域を作っていくにあたり、市内全体を整備していくのではなく、メリハリを持って進めていくことになると思うが、このことについての考えを聞きたい。

【市長】

今までは25万人の人口を目指してまちづくりを進めていましたが、実際は17万4千人の人口となっています。これまで拡大してきたものを小さくするという事は難しいことです。

これからの高齢化社会に向けて、歩いて行動ができる場所を一つの生活圏として考えていくことができないうかと思っています。歩いて行ける距離に生活に必要なスーパーや医療機関、公的機関、金融機関などがそこで揃うという形を考えていこうと思っています。このような拠点を市内に8カ所設定して、そこを公共交通で結ぶといったまちづくりを考えています。

【参加者A】

特にネットワークについて力を入れて、メリハリのあるまちづくりを進めていただきたいと思います。

【市長】

公共交通については、定時性をしっかりと確保していかなくてはなりません。バスは長い距離を走ると、時間がずれてくるものです。停留所にすでに来たのか、まだ来てないのかわからないのは困ります。また乗り換えも大変になり

ます。そこで、効率が良いのが、短い距離をピストン輸送すると時間もわかりやすくなるし時間性も確保できるようになると考えています。

このような考え方を皆さんに示しながら、しっかりと進めていきたいと思えますので、ご協力をお願いします。

【参加者B】

若者の転出超過は、感覚的にも感じていますし、グラフを見てもとてもショックに感じています。おそらく進学や就職がきっかけで釧路を出ていくことになっているのだと思いますが、そこを今すぐどうにかするというのは難しいと思います。私は20代後半や30代の人たちが、帰ってきたいと思うような対策をするのは、人口や労働力の増加ということを考えてもかなり効率的なことだと思っています。

私はIT研究会を開催していて、10代の若者が受講していました。その受講者はちょうど30代になり、もうそろそろ釧路に帰りたいたいと言っているのを聞いています。10代のうちに釧路で成功する体験をすると、釧路に良い思い出があるので、その思いを持ちながら東京に就職するということがあるのかなと思います。

これから中学生のプログラミングコンテストを開催するのですが、そのようなことなどで成功体験をさせてあげるのが良いのではないかと考えています。IT系というのは働き方が多様化していて、どこにいても働けるので、そちらに力を入れてはどうかと思っています。16歳以下のプログラミング講習は旭川と帯広と釧路だけです。これから全国に広げようと思っています。写真甲子園みたいな感じで、釧路がプログラミングの聖地になるよう、ぜひ協力していきたいと思っています。

【市長】

ありがとうございます。成功体験やこの街で何が出来るというのが重要だと思います。

私の高校時代の同級生で釧路に残っているのは約1割です。ほとんどが札幌や東京に転出していきました。当時、地元で就職するといったら、市役所か金融機関という話をしていました。このように昔から地方から中央へという流れでした。

若い人たちは一度は札幌とか東京にあこがれがあると思います。しかし実際に行ってみると、思い通りの仕事につける人はあまりいないのが現状で、地元に戻りたいと思っているけれど、地元の情報がないといったことになっている。実際に新卒で就職して、3年以内に離職した人が全国では45%くらいで、北海道では50%と言われています。でも見方を変えると、我々にとっては良いことなのではないかという気もします。憧れをもって大都市に行ったのはいいけど、気温の暑さや満員電車で通勤する辛さなどに嫌気がさした人もいます。そのような人たちに、地元の情報が届くことによって、地元に戻ってくるといった構造が出てくると思っていますので、ぜひこのような取り組みを行っていき

たいと思っています。

産業振興ということも含めて取り組めると考えていますので、いろいろとご協力をお願いします。

【参加者C】

例えばMOOのプールや図書館、鉄道の高架などの問題などをずっと見てみると、釧路というのは非常に議論が困難していて、なかなか結論がでないと感じています。鉄道の高架の話でいうと、もう30年以上は議論しています。

議論するのはいいのですが、まずこれをどのように決めるかという決め方を先に決めてしまうのがいいのではないかと考えています。釧路市としての意思決定が少し足りないのではないかと感じています。どういう期間で、いつまでに、だれが責任をもって、どのような手順でということを決めて、決定したらそれに従う。また決定したらそれに対して文句は言わない。そうでないと釧路市民が市民としての連帯感をどう強く持てるか、あるいは稀薄であるかに関わってくる。

IRの問題についても、市長は進める、商工会議所も進める、その時に市民はどこで参画すればいいのかということになりますが、それは市民の意見の反映の場を作ればいいと思います。そして、みんなで仲良くやってみようというようにしていただきたい。

また、北極海航路が苫小牧に決まったというのを新聞で見ました。これについても釧路市としてもっと広範囲に運動をしていった方が良くと思います。

【市長】

いろいろと進めていく中で、市民との連帯感、一緒になって進めていくということはとても重要だと思っています。

ただ、いろいろな事柄は「生きもの」です。常にいろいろな状況の中で変わっていくものです。ですので、私はできるだけ考え方を市民の方々に伝えていくことが重要だと思っています。

例えば駅の問題ですが、これは昔から釧路市民の悲願として昭和40年代から話があります。でも昔のままだったらこれはできなかったと思います。平成19年時点では、お金の問題で難しかったものです。しかし平成23年の東日本大震災の時の状況を考えると、今のままでは、車で移動している人たちが、駅を越えて逃げることができないので、命を救うことができないと思いました。これらの防災の視点と今までのまちづくりを考えた中で、より負担が少なくなるように、何かできないものかと考えて、今スタートラインに立ったところです。常に課題を意識しながら、良いタイミングで課題解決をするかということだと思っています。

図書館の件についても、はじめから民間との協働を考えていたわけではなく、今のままでは耐震強度の問題があり、耐震改修を行わなくてはならないという状況であった時に、ちょうどタイミング良く北海道建物が新たにビルを建設するといった話が出てきました。

北極海航路のことについては、経済界の中でも北極海航路の活用ということ
を研究会などで進めていますし、考えていかななくてはならないことと思います。

ただ、実際この航路にはいろいろ問題があると聞いており、今後市としてい
ろいろな情報を入手しながら、この北極海航路を活用できるかを考えていき
たい。

【参加者C】

釧路港をもっとアピールしたほうが良いと思います。

それと、市役所は昔に比べて、良い話が多くなってきたような気がします。
生活保護受給者に対する取り組みや観光の面でも活性化に向けた話が聞こえ
てきます。また市役所職員の市民に対する対応もかなり良いように感じます。

このような懇談会は、市の取り組みや考え方などを市民が聞く良い機会です
し、市民の連帯感を強めることになるとと思いますので、もっと増やしたほう
がいいと思います。

【市長】

ありがとうございます。今後もしっかりと頑張ります。

【参加者B】

観光の説明の中で、アイヌ文化の項目がありましたが、これはとても良いこ
とだと思えます。箱ものを作ったりする観光は難しいと感じています。7～8
年前にITのイベントで島根県の松江に行ったことがあります。釧路市と同じ
ような規模の人口で、松江城や宍道湖の夕陽もきれいでとても良い観光地だ
と思えました。そのイベントの懇親会の中で、松江市長と島根県知事が名刺を配
っていました。県庁の方とお話する機会があった時に、「観光ではなかなか
食べていけない。先が見えているし、松江城を何回も見に来ないですよ。」
という話をしていました。そして「Ruby（ルビー）」というプログラミング言語
があるのですが、島根県にはこれを開発した松本さんが住んでおり、このRuby
を松江の文化にしていくということを知事と市長がお話ししていました。松江
ではこのRubyによる企業誘致に成功して、20社くらいで約6,000人の
人が集まっています。

ITというのは、お金をかけないでできる産業だと思っていますので、ぜひ
釧路市でもそういうところに力を入れていただければと思いますし、協力でき
ればと思っています。

【市長】

いろいろと教えていただいて、いろいろな可能性に進んでいければと思っ
ています。チャレンジして、うまく方向性があえばプラスになると思います。

今まで行政体は「一戦必勝」。つまり市長が言ったことはやらなくちゃいけ
ない、決めたことはどんなことをしても形を付けなくちゃいけないといった風
潮でした。でも私はそうではなくて、「十戦七敗」くらいのマインドで行こう。
そのかわり負けそうなときは、完璧に負けないように早く引くといった考え方
でさまざまなことに取り組んでいこうという話をしています。

I Tに関しては、今後いろいろな知識や情報をいただいて、進めていければありがたいなと思っています。

また、先ほどの島根県の話ですが、このような話を聞いたことがあります。

始めて日本に来た外国人は、まず東京・京都・富士山とかに行き、3回4回来た人は、北海道に来る。ところが10回くらい来ている人たちは、島根とかに行くようです。つまり日本の歴史や文化に触れるために訪れるようです。

私たちはアイヌ文化つまり先住民族の文化を大切にしていこうと思っています。このことは先進国では当たり前のことであり、先住民族の方々は尊敬されています。ですので、私たちはアイヌ文化を大事にし、情報を発信しながら、地域としての価値や評価を高めていければと思っています。

【参加者B】

アイヌ文化に関しては、私も釧路市民としてしっかりと守っていきたいと思っていますし、ぜひ守っていただければと思います。

【市長】

わかりました。

【市長】

お疲れのところ、こうやって、懇談会の方にご出席を賜りましたことを、心から感謝を申し上げたいと思っています。

ただ今みなさまからいただいたご意見を、しっかりと受け止めて進めてまいりたいと思います。

また、アイヌのお話もありましたが、アイヌ語の挨拶について、広報くしろでも掲載していこうと思っています。イランカラプテは「あなたの心にそっと寄り添わせてください」という意味で、イクアンローは「乾杯」という意味です。このようなアイヌ語をさまざまところで少しずつPRしていきながら、いろいろなところで使っていけるよう取り組んでまいりますのでよろしくお願い致します。

今日は誠にありがとうございました。